

V. 特記事項（特色ある教育研究活動等）

1. 学校教師学部的全寮制による教員養成と高い教員就職率

2022年3月卒業生の正規教員採用率は61.1%（2021年は61.6%）、臨時任用を合わせた教員就職率は92.0%（2021年は86.7%）である。こうした結果を残すことができている最大の要因は、本学部の特色である「全寮制」にある。

急激に変化する社会や学習指導要領に改定に伴い、教師に求められる資質能力は多様化しているが、どのような時代になっても「子どもたちのために」という強い使命感と人間性豊かな教師が求められることに変わりはない。本学部入学を希望する学生は、集団生活である全寮制の生活を送っても「教師になりたい」という強い意志を持つ者であり、入学後の4年間の「全寮制」の教育によって、教師に必要なコミュニケーション能力や対人関係構築能力、忍耐力、役割と責任、思いやりの心などを育てている。また、全寮制だからこそ可能になる「夜間学修」（大学教員が行う「夜間講座」を含む）により、教師に求められる「確かな専門的知識」を獲得している。

2. 八千代市ならびに八千代市医師会からの要請に応じて設置した看護学部

本学看護学部は、2014年9月の八千代市からの看護学部設置要請および2015年6月の「八千代市看護師確保の相互連携・協力システムに関する覚書」の締結に基づき、2017年4月に設置した。その目的は、八千代市の看護師を確保し、医療体制を安定的に継続させるとともに、質の高い医療体制を構築することであり、覚書の第3条には、看護学部は養成する看護師が市内に定着するよう対策を講じるものとする明記されている。

看護学部は、開設時から「幅広い教養と豊かな人間性、倫理的感受性」「グローバルな広い視野と看護職に必要な英語力」「地域の医療専門職と連携・協働し、看護の専門性を発揮する力」などの7つのディプロマ・ポリシー（DP:育成する人材に修得を期待する能力）に基づき、質の高い看護職の育成を行ってきた。その結果、1期生・2期生の卒業生66名全員が看護師国家試験に合格し、看護師・保健師として就職している。主な就職先は東京女子医科大学附属八千代医療センター29名で、八千代市の医療機関には32名（49%）が就職し、八千代市周辺の医療機関にも26名（40%）と、卒業生の9割は八千代市および八千代市周辺の医療機関に就職している。なお、主な就職先である東京女子医科大学附属八千代医療センターからも高い評価をいただいております。「新入職員として、大変優秀な方々をお受けしているので、大切に育成し、その方らしく成長できるように支援したいと思います。」との言葉を頂戴している。以上のように、秀明大学看護学部は、地域が必要とする看護師の育成において、数の上でも質の上でも十分に地域貢献しているといえる。